

1. 農場HACCPとJGAP家畜・畜産物の取り組み事例

豊後大野家畜保健衛生所・¹⁾ 宇佐家畜保健衛生所

○波津久香織・林拓己・(病鑑) 壁村光恵・(病鑑) 川部太一・安達聡¹⁾

【はじめに】

近年、食の安全・安心確保の観点から、畜産物の生産現場である農場の衛生管理向上が最重要課題となっている。生産農場は農場HACCPやJGAP家畜・畜産物（JGAP）の認証を取得し、安心安全な畜産物の生産を図っている。当家保管内にあるA農場は、健康な家畜及び安全な畜産物の確保が効率的に行われることを目的とし農場HACCP認証を取得した。また、B農場は、国際的にも高く評価されるJGAPの認証を取得することで、食品の安全を確保し、より良い経営の実現を目的としている。当家保ではこの2農場に対し認証の継続及び取得等の指導を行っているので報告する。

【農場の概要及び取り組み内容】

A農場は、黒毛和種の雌、250頭を飼養する肥育農場で平成26年6月から農場HACCP認証取得に向け取り組みを開始し、平成28年3月に県内初の農場HACCP認証を取得した。また、平成31年1月に認証の継続を行った。農場、畜産協会、家保、振興局、動物医薬品販売メーカーからなるHACCPチームで、農場HACCP推進会議を毎月1回実施している。当家保は、衛生管理向上対策指導等を行いHACCPシステムが円滑に機能するようフォローアップしている。また、平成30年には農場の関係者2名がHACCP指導員の資格を取得し、PDCAサイクルを活用した衛生管理及び生産性の向上に努めている。

B農場は肥育牛1000頭、繁殖牛900頭の飼養している。この農場は2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会の調達基準を満たすためJGAP認証取得の準備段階であるGAPチャレンジシステム（GAPチャレンジ）の取組農場に指定された。今後の海外輸出を見越しGAPチャレンジからJGAP認証取得農場となるため、取り組みを開始した。当家保は従業員の教育訓練として飼養衛生管理基準についてや消毒など疾病予防の指導を行った。今後も、定期的に指導を行い、衛生対策の意識向上に努める。

【まとめ】

生産農場段階における衛生管理の向上・畜産物の安全性を確保し、安心安全な畜産物を消費者へ提供することが農場に求められている。A農場は農場HACCP認証を取得し、飼養管理の工程がマニュアル化されたことで、継続的にHACCPシステムの改善を行う仕組みができた。この仕組みにより健康な家畜及び安全な畜産物が確保され、疾病防除を行い生産性が向上した。一方、B農場は、海外輸出を視野に入れ、国際的にも高く評価されるGAP認証を取得することで高い衛生管理レベルの実現を目指している。今後、当家保では、個々の農場が自主的な衛生管理の持続が行えるよう「計画・実行・検証・改善」からなるPDCAサイクルを活用し衛生管理の向上に努める。